

第 11 回ITER機構職員募集の説明会(パリ)での Q&A

1. 日時・場所

平成 20 年 9 月 19 日(金)15:00~16:40
原子力機構パリ事務所会議室

2. 参加者:3 名

3. 説明内容

- 1) ITER 計画の概況
- 2) ITER 機構職員公募の状況
- 3) ITER 機構職員公募の面接試験について(面接試験の模擬ビデオを用いて)
北澤真一 ITER 計画管理グループ

4. 説明会での Q&A

Q1: 面接はどこで受けるのか?

A1: 面接はネット環境と機材があればどこでも受けられる。パリ事務所でも可能。しかし、カダラッシュに行っても、直接ではなく、ビデオで行われる。

Q2: ITER機構には日本からの応募者が非常に少ないそうだが、特別な理由でもあるのか?

A2: いくつかの理由があるが、ITERは核融合施設なので、ITER機構職員は核融合の知識が必要だと誤解されていることが大きな理由だと思う。核融合に関する専門知識を必要とするのは、FSTのみで、他は核融合の事をほとんど知らなくても、例えばプラントや契約などの担当する分野の専門知識を持ち合わせていれば問題ない。

Q3: 核融合のことはほとんど知らない建設技術者でも、ITER機構で雇用される可能性は有るか?

A3: 個別の分野に関しては、ITER機構のウェブサイトに掲載されているjob descriptionを見て欲しい。すると、様々な分野の求人があることが分かると思う。

Q4: ITER機構の職場環境はどうなっているか?

A4: 現在はCEA内のプレハブのような建物なので、余り良い環境にはなっていない。しかし、来月(平成20年10月)には、ITER機構の自前の建物であるJWS2(ITER-Joint Work Site)が完成し、順次移動する予定なので、これから出来たばかりの新しい建物で作業を行うことになる。

Q5: ITER機構の勤務時間は、どうなっているか?

A5: ITER機構は、国際機関ではあるが、南仏に位置しているので、休暇や終業時間を尊重しているようである。

以上